



なるしま えがみしゅうらく
11 奈留島の江上集落
えがみてんしゅうどう しゅうへん
 (江上天主堂とその周辺)

11. Egami Village on Naru Island
 (Egami Church and its Surroundings)

「なるしま えがみしゅうらく えがみてんしゅうどう しゅうへん奈留島の江上集落(江上天主堂とその周辺)」は、潜伏キリシタンが信仰の共同体を維持するに当たり、どのような場所を移住先として選んだのかを示す5つの集落のうちの一つである。

19世紀、そとめ外海地域から各地へ広がった潜伏キリシタンの一部は、奈留島の人里離れた海に近い谷間を移住の適地として選び、地勢に適応しながら指導者を中心としてひそかに共同体を維持した。

解禁後がカトリックに復帰し、集落内の湧き水に恵まれ防風に優れた場所に教会堂を建てたことにより、彼らの「潜伏」は終わりを迎えた。



1906年、湧水に恵まれ防風に優れた場所に最初の木造教会堂が建てられた後、1918年に現在の本格的な木造教会堂が建てられた。天主堂の全面には、タブノキの大木が植生し、冬場の強い北風から天主堂を守っている。



撮影：池田勉

江上天主堂は、湿気対策として高床式となっており、軒裏には独特の通気口を設けるなど、随所に在来の工法を用いており、風土的特徴と西洋的特徴が融合した教会建築となっている。